豊かな体験活動推進事業中部ブロック交流会　分科会（高等学校）発表資料

愛知県立衣台（ころもだい）高等学校

１　本校の概要

本校は、「さとく、明るく、頼もしく」という校訓のもとに「社会の役に立つ人間を育てる」を教育目標とする、創立２９年目の全日制普通科高校である。

本校のある豊田市は、全国一の製造品出荷額等を誇る愛知県の中でも、産業のけん引的役割を果たしている。昭和１３年に大手自動車会社の工場を誘致以来、日本を代表する「車の町」として発展し、自動車関連を中心に「モノづくり」産業が集積している。一方、市の総面積の５０％以上が山林や田畑で、緑豊かな自然環境にも恵まれている。

現在本校は各学年８クラスの計２４クラス、９００名を超える生徒数である。約８０％が豊田市内から、約２０％が隣接する市町村から通学している。進路状況は約４５％が大学進学、約２５％が専門学校進学、約２５％が就職している。就職に関しては、厳しい状況の中、毎年希望者の８５％以上が第一希望の企業に内定している。

また、平成６年度卒業生が阪神淡路大震災の被災者へ、卒業記念品代を義援金として贈った。それを聞いた岐阜県荘川村の役場から、卒業記念品がなくてはかわいそうだということで「思いやりの荘川桜」の苗５本が本校に贈られてきた。その縁で、１年生はオリエンテーション合宿で荘川村へ、２年生は修学旅行で神戸へ行くことにした。

ともすれば個人主義が進む社会風潮の中で、本校では荘川桜とともに人のきずなを大切にする心(本校ではこの心を Korodai Spirit という)を育て、人間としての基礎・基本を育成することを具体的な目標としている。

２　研究のねらい（第１学年を中心にして）

本校における豊かな体験活動のねらいは、本校の教育目標にあるように、各自が社会の役に立つ存在として豊かな人間性や社会性をはぐくむことにある。

このねらいを実現するため、体験活動の在り方について「豊かな体験活動推進委員会」で討議した。その結果、地域の人や保護者を講師とする体験活動に主眼を置くこと、一人一人が主体的に考え行動することを目標とするが、最初は学年やクラス単位での体験を通して自己を発見する活動から始めること、また、平成１４年度から全校一斉実施の「総合的な学習の時間」のテーマである「きずな（人と人とのつながり）」とも関連させること、という３つの方針を立てた。

この方針に基づき、自分は将来どの道に進み、きずなを広げたいのかを発見するための活動を第１学年の計画に盛り込むことにした。自分の将来を具体的に考えるために、豊田市という産業都市の中で地域社会や地元産業を学ぶ活動、あるいは都市部から農山村に目を向け、交流や自然に触れあう活動、伝統文化を学んだり未来の都市を考える活動、さらに、人に喜んでもらうことを喜びとする活動などを体験する計画を立てた。そして１２月の文化体験により、自分にあった進路、広げてみたいきずなを確認していくこととした。

また、学校支援委員として、地元産業界の代表者、大学・専門学校の代表者に依頼をし、施設見学や講演会の実施について具体的に協力支援を得ながら進めた。

3　活動内容

(1)　思いやりの心(KorodaiSpirit)を育てる活動

①　ボランティア体験（５月～）

１年生がホームルーム単位で毎月１回ＬＴの時間に通学路清掃を行う。ホームルームを数グループに分け、学校周辺の通学路の清掃とバス停のゴミ箱の片づけをホームルーム担任・副担任、環境美化部の教員等と一緒に実施した。

通学路清掃

この活動は、平成８年度から毎年行われ、全校生徒が体験しているもので、捨てた人の心を映すゴミを自らの手で拾うことで、ポイ捨てしない心や環境問題を考える意識を育てること、清掃活動を行う人の立場を理解させることをねらいとしたものである。

また、学校近くの河川の清掃活動も地域の方々とともに行った。

逢妻女川クリーン活動

②　荘川村での交流体験（４月）

荘川村村長の講話

１年生のオリエンテーション合宿において、荘川村村長と樹齢４５０年につながる荘川桜の種子を育てている方の講話を聞いた。人口約２，０００人の荘川村に約３００人の若者が訪れることの意義やダム建設のために沈んだ村人の心を受け継ぐ荘川桜のいわれについて話を聞き、「思いやりの心」のつながりを学習した。本年度さらに５本の荘川桜が贈呈され、従来の活動が広がった。

③　荘川村での自然体験（４月）

１年生のオリエンテーション合宿にて、地元の方の協力を得て荘川村での宿舎周辺の森林散策を行い、その後、散策の時に拾い集めた木の枝で写真立てを製作した。

④　きずなに関する講演会（１２月）

臨床心理士の方に、人と人との結びつきの難しさ、また、きずなを作り上げていく大切さについての講演をいただいた。価値観が相対化している社会の中で、他の人といかに共通点を見つけ、あるいは自分と違う価値をいかに受け入れていくのかが、これからのきずなづくりには大切であることを学習した。

(2)　地域社会や伝統を学び、人と人とのつながりであるきずなを大切にし、未来を考える活動

①　トヨタ博物館と愛知県陶磁資料館での文化体験（６月）

トヨタ博物館は、「自動車の歴史を学び、人と車の豊かな社会を考える」ことをテーマにした博物館である。豊田市の中心産業である自動車の発達の歴史を、グループ単位で研究課題を持って見学し、未来を考えるきっかけとした。

愛知県陶磁資料館は、陶磁器に関わる歴史的・産業的に貴重な文化遺産を収集・保存した資料館である。豊田市から北に隣接する瀬戸市一帯は古代より「やきもの」

の生産が盛んであり、この地域の産業と文化は「やきもの」と深いつながりをもって発展している。伝統産業としての陶磁器を学び、絵付けの体験を行った。

② 「未来都市づくり」講演会（１１月）

地域社会を研究する大学の先生に未来都市についての講話をいただいた。「豊田」はこれまでは「モノを作る町」であったが、これからは「一緒に暮らす町」として発展することが大切である。したがって「周りのことを考える人」になる必要があること、「未来都市づくり」とは「人間づくり」にほかならないことを学習した。

③ 文化体験の日（１２月）

地域の方々、ＰＴＡ、本校の生徒、教員を講師に依頼して、２６の体験講座を開講した。この文化体験は、これまでの総合的な学習の時間や体験活動で学んできたことをもとに、自分をどの方向に広げていくのかを確認する活動として位置付けた。１年間の集大成として、生徒が２つの講座を選択し、文化体験をした。

２６の講座は次のとおりである。

琴・茶道・棒の手・行者祭太鼓・和紙作り・日本舞踊・トランペット・折り紙建築・パソコン・ビーズ細工・折り紙・囲碁・手品・腹話術・紙飛行機・演劇・ジャズダンス・太極拳・琉球舞踊・護身術・空手・手話・点字・外国文化・救急救命法・小物作り。

救急救命法

腹話術

和紙作り

手話

④ 体験活動発表会（９月・１１月・２月）

９月は文化体験に向けてのクラス発表、１１月は地域社会研究についての発表、２月は全生徒の体験発表をした。発表方法は、ビデオやパソコンのプレゼンテーションソフトを使った舞台発表、パネルによる掲示発表、冊子による紙上発表の３種類とした。

4　今後の計画

基本的には本年度の内容を来年度も継続して行う予定であるが、新たな計画として次のようなものを考えている。

(1) 未来都市づくりの継続

「思いやりのコミュニティづくり」について調査・研究をし、ミニチュア都市の制作体験を通して、「自分はこの社会に必要な人間である」という自信を生徒がもつことができるような実践をさせる予定である。

(2) 国際交流のプログラム

本校は、「外国人生徒にかかる入学者選抜」を行っている。愛知県内では３校で平成１４年度から導入されたが、本校にはこの制度により５名の外国人生徒が入学してきた。豊田市は外国人が多く居住し、外国人とともに生きるための知識や交流が必要になる。日本の伝統・文化を学ぶとともに外国人との交流プログラムを増やし、「外国人と一緒に暮らす思いやりのある人」の育成を目指す予定である。

(3) 各種発表プログラム

自分たちの学んだこと、体験したことを「人に伝える」力をより高めるために、発表を体験させるプログラムをもっと増やし、さらに、発表に対しての質問や議論の体験に発展させる予定である。

5　まとめ

(1) 成果

本年度の豊かな体験活動は、大きな成果をあげることができた。自分の将来像をもてないでいる生徒たちが、様々な角度からの活動を行うことで、具体的に自分の進みたい進路、自分が広げたいきずなの方向性を見出しはじめた。自然と触れあう道がよいのか、モノを作り出す道がよいのか、人々を助ける道がよいのか、人々を楽しませる道がよいのか、文化体験で生徒たちは、自分の向き不向き、好き嫌いを含め「自分自身」を発見し、生き生きとした姿を見せてくれた。最初は「どんなことをしてみたいのかわからない」という声が多かったのに対して、「今度はこんな事がしてみたい」「あれはどんなふうになっているのか調べたい」などと前向きな意見が具体的に出てくるようになった。

また、どのような道に進むにせよ人と人とのきずなは大切であり、思いやりの心がなくてはならないものだと実感できたとの声が上がった。さらに、未来の都市を考える活動の中で、ただ単にハード面だけでは理想の都市はできず、結局そこに住む人の生き方を考えざるを得ないことに気付かせることができた。

(2) 課題

本年度の第１学年の生徒たちは、自分の進みたい方向が見えはじめ、自己を発見する活動ができたといえる。今後は発見した自己を磨き、自らの思いを実現する活動へと発展させ、自己実現へと導いていかなければならない。そのためには、各自がさらに主体的に考え、行動する能力と資質を養う必要がある。

また、自己発見から自己実現に向けての活動を行う時、未来都市の一員として決して自己中心的にならず、思いやりの心(Korodai　Spirit)を基盤に置いて活動させることが大きな課題である。